

開催地名：大阪府大阪狭山市	
開催日時	令和 5 年 1 月 15 日（日） 10：00 ～ 11：30
開催場所	大阪狭山市立コミュニティセンター
語り部	山縣 嘉恵 （宮城県東松島市）
参加者	地域住民、自主防災組織・自治会、消防団等 34 名
開催経緯	本市は、南海トラフ巨大地震発生時、震度 6 弱を想定され、上町断層帯による直下地震では、震度 7 が想定されている。しかしながら、過去に大きな災害経験等がなく、災害についての意識高揚や防災への取組みの推進に苦慮している。 発災時の避難所運営等については、避難所ごとの避難所運営マニュアルを策定する動きが一部地域で見られるとともに、自主防災組織代表者から避難所の実態を知りたいなどの要望があり、関心が高くなっている。
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>私が住む東松島市は、桃生郡矢本町と鳴瀬町の合併（平成の大合併）によって 2005 年に発足した。西側に松島町が隣接し、仙台市と石巻市の間に位置しており、ブルーインパルスで有名な航空自衛隊松島基地が近くにある。</p> <p>2011 年 3 月 11 日の東日本大震災では、津波の襲来で、市内全住宅の 3 分の 2 を超える約 11,000 棟が全半壊した。正確な人的被害状況は、死者（東松島市民）1,110 人（震災関連死 66 人を含む）、行方不明者 23 人、東松島市内での遺体収容数 1,067 人（うち 東松島市民 963 人、市民以外 102 人、身元不明遺体 2 人）となっている。野蒜海岸では 10.3 メートルの津波が観測された。私が住む野蒜地区では、東側の石巻湾から押し寄せた津波が内陸 2 キロ弱を横断し、西側の松島湾に流れ込んだため、野蒜小学校の体育館で 13 人が、特別養護老人ホーム「不老園」の入所者 56 人が亡くなるなど、壊滅的被害を受けた。市内の指定避難所は 106 箇所及び、15,000 人以上が避難所生活を送った。</p> <p>野蒜地区では、震災前に 4,700 人いた住民のうち、511 人が犠牲となった。震災後の暮らしは選択の連続で、仮設住宅もしくは「みなし仮設」、他地区への移住等の選択を経て、野蒜ヶ丘防災集団移転団地が設置されたが、現在人口は 2,700 人ほどにまで減少している。</p> <p>（２）東日本大震災時の状況</p> <p>地震発生時、私は自宅に、息子は小学校に、義母は自宅の離れに、夫は勤務先にいた。2003 年にあった宮城県沖地震（宮城県北部沖地震）後、我が家では家具を L 字型金具で固定したり、家具の上にモノを置かないことを徹底していたので、幸いにして家具の転倒はなかったが、経験したことのない大きな揺れが 3 分程度は続いた。津波が来ることは予想していたが、1960 年のチリ地震津波同様、到達まで時間的余裕があると誤った認識を持っていたために、義母を置いてまずは息子を迎えに小学校に向かった。そして息子を引取り、一旦地区センターに待たせておき、義母を自宅に迎えに行き、そして地区センターで 3 人一緒に合流してから避難所である野蒜小学校の体育館に向かった。</p>

野蒜地区には、西から東に東名運河が流れており、避難所の野蒜小学校は運河の北側、自宅は南側（海側）にあった。野蒜小学校までは野蒜海岸から直線距離で 1.2 キロ（自宅までは 600 メートル）あり、この運河の北側までは津波が来ないと思い込んでいた。避難所に着いた私たちは、既に体育館は避難してきた住民でいっぱいだったため、中には入れずにいた。その時、海側から黒い津波が運河を越えて小学校に向かってくるのが見えたため、校舎に向かって走った。私たちは津波から免れたが、体育館にいた避難者の一部に犠牲者が出てしまった。

（3）まとめ

この震災を経験しての思いは、何も知らなかったなという「反省」、自分たちは助かったが、できればみんなで助かりたかったという「後悔」、そして平時に備えられることが多いという「気付き」である。是非みなさんも、避難行動についての以下の 7 つのポイントを、家族で確認していただきたい。

- ・家の中の地震対策が有効
- ・避難場所は一つだけでなく複数を把握
- ・災害が起きたら、待たせない、待たない、戻らないことが重要
- ・避難場所は災害により使えないところもあることを知っておく
- ・地域の人と日頃からのあいさつが大切（顔の見える関係性の構築）
- ・車での避難も想定した訓練も必要
- ・学校と地域の連携した訓練やマニュアルの確認・共有も必要

今を生きる私たちが未来のためにできることは、伝承していくことであり、伝承から学び、行動を起こすことである。命を大切にすることは、防災に取り組むことであり、人を大切にすることであり、人づくり・街づくりをすることである。未来へつなぐため、命を守るための伝承につながることを祈念したい。



開催地より

「東日本大震災の体験から未来のために今できること」というテーマでお話しいただいた。本日の講演を受けて本市としては、備蓄（非常食）の追加及び住民に対する備蓄の呼びかけの推進とともに、図上訓練や避難訓練など、実践的な訓練の強化を進めていきたい。